

ニュージーランド キウイフルーツ主導で果実輸出が増加

[FreshPlaza](#) 2025年10月30日

ニュージーランドの果実輸出はキウイフルーツが主導し16億9千万NZドル増加

ユナイテッドフレッシュ(青果物連合)が発行した統計年報(Fresh Facts)2025の新しいデータによると、ニュージーランドの果実輸出は前年と比較して16億9千万NZドル増加し、主な要因はキウイフルーツの輸出量の増加であった。(1NZドル=約87円。以下、単に「ドル」と表記)

同報告書によると、2025年6月30日までの1年間における生鮮及び加工された青果物の輸出総額はFOBベース(以下同じ)で68億5千万ドルに達した。引き続きオーストラリアと日本がニュージーランドの主要輸出先であり、中国と欧州連合がそれに続いた。

ユナイテッドフレッシュ技術諮問グループのプロジェクトマネージャーであるジェイコブ・ローズ氏は、「生鮮果実だけで、2024年に比べて16億9千万ドル(42%)多い56億8千万ドルの輸出額を生み出した」と述べた。(以下「」は同氏の話)

「キウイフルーツは依然として最大の輸出作物であり、青果物輸出額のうち36億6千万ドルを占めており、これは2024年に比べて35%の増加である。」

ニュージーランド政府が掲げる青果物輸出額を倍増させる目標(2024年の50億8千万ドルを2034年までに101億6千万ドルに)は、現在の成長傾向が続けば達成可能と見られている。現行の成長軌道に基づけば、青果物の輸出額は2034年までに148億~185億ドルに達する可能性がある。

報告書はまた、『ニュージーランド園芸行動計画(AHAP)』が掲げる73億6千万ドルの農場出荷額の目標に向けた進捗も示している。「統計年報2025は正確かつ信頼性の高いデータを提供しており、この目標に対する進捗を追跡することが可能である。」

マオリ(先住民族)の園芸分野への貢献が拡大していることも報告書では強調されている。現在、マオリの所有地のうち5,715ヘクタールが果実及び野菜の栽培に利用されており、過去20年間で470%増加した。マオリの園芸資産は現在37億ドルと評価されている。

報告書は今回初めて、青果物セクターにおける物流に関するデータも掲載している。それによると、13の空港及び港湾が青果物輸出を扱っている。国内の鉄道網は国内及び輸出向けの双方に対応し、地域間の年間輸送量は概ねバナナ1万1千トン、ジャガイモ1万5千トン、タマネギ1万9千トンである。

生産と輸出の伸びが堅調である一方で、統計年報2025は課題も特定している。分析対象となった年次報告書のうち94%が持続可能性に言及していたが、国連の持続可能な開発目標(UN SDGs)を採用している組織は17%にとどまり、持続可能性の進捗をデータで掌握している組織はわずか13%であった。「2024年以降は持続可能性に関する報告が改善されているが、認識と実行の間には依然としてギャップが存在する。」

本年版では、人工知能(AI)、食品安全、業界標準規格、労働者の育成、奨学金制度による園芸分野への新規参入者の誘致等、業界を形作る主要な動向についても紹介している。

統計年報を毎年発行しているユナイテッドフレッシュは、ニュージーランドの青果物セクター全体を広く代表する団体である。なお、ワイン及びワイン用のブドウは別団体のニュージーランド・ワイン growers が入り組んでいるため、本報告書には含まれていない。